

大臣表彰受賞者一覧

さいたま新都心バリアフリーまちづくりボランティア	<p>さいたま新都心において、街の案内、ガイドヘルプ（車いす補助、視覚障害者誘導等）、手話コミュニケーション、擬似障害者体験補助（車いす体験等）、外国語通訳、手作りマップ作成、各種イベントの企画・実施等の取り組みを行っている。</p> <p>特に、市外の団体等への対応など活動対象が地域的に広範囲に及んでいるという点、小中学校への対応などによりバリアフリー化推進を次世代に受け継ぐという点で多大な貢献を果たしている。</p>
特定非営利活動法人伊勢志摩バリアフリースターセンター	<p>日本初のバリアフリー観光の案内システム（施設等のバリアフリー調査、アドバイス、案内、情報提供等）を行う場としての「バリアフリースターセンター」を、地元の障害者を含む市民で立ち上げ、伊勢志摩をバリアフリー観光の先駆者として急速に推進し、障害者や高齢者の集客を劇的に伸ばしている。</p> <p>すでに6年目となる本活動は、伊勢志摩に至る交通、および伊勢志摩地域のバリアフリー化や情報発信にまで及び、観光、交通、福祉、教育、広域行政などを横断的に推進する先駆的な市民活動として高い評価を得ている。</p>
豊中市	<p>平成14年より、他の自治体にはない方法で積極的にスパイラルアップの取り組みを実施している。具体的には、事業の設計・工事段階で障害者のチェックを受ける「バリアフリーチェックシステム」、事業の進捗管理や継続的改善を進めるための「バリアフリー推進協議会」、基本構想に定める特定道路を補う「歩行空間ネットワーク整備計画」の策定を行っている。</p> <p>また、「とよなか交通バリアフリーニュース」「豊中市ホームページ」における情報提供の充実など、バリアフリーの推進に貢献している。</p>
廿日市市	<p>これまでは踏み切りによって分断されていたバス停と電車駅を一体整備し、交通結節点の機能強化に併せて、段差のない構造での一体化によるシームレス（連続的）なバリアフリー化が図られている。電車とバスの乗り継ぎが非常にしやすくなったなど利用者の評価が高いほか、異なるモードの交通機関のシームレス化という点では先進的な事例である。</p>
宮崎市	<p>宮崎市福祉のまちづくり条例に基づき、不特定多数の人たちが利用する建築物について、規模、用途に関わらず広範囲に事前協議の対象とするほか、バリアフリー基準への適合証の積極的な発行による啓発を図っている。</p> <p>また、既存建築物におけるスロープ設置やトイレなどのバリアフリー改修工事に対する助成、市内のバリアフリー化された建築物の情報マップ等の提供なども実施するなど、民間建築物について、積極的なバリアフリー化の促進策を講じている。</p>